

実力編
よくでるポイント講座
介護過程

7

第33回 問題67

〔事例〕

Aさん（80歳、女性，要介護3）は、パーキンソン病（Parkinson disease）と診断されている。診断後も家業を手伝いながら、地域の活動に参加していた。半年前からパーキンソン病（Parkinson disease）が悪化し、動作は不安定となったが、「家族に迷惑をかけたくない」と、できることは自分で取り組んでいた。また、主となる介護者である娘に服薬を管理してもらいながら、通所介護（デイサービス）を週3回利用し、なじみの友人と話すことを楽しみにしていた。最近、通所介護（デイサービス）の職員から娘に、昼食時にむせることが多く食事を残していること、午後になると「レクリエーションには参加したくない」と落ち着かない様子になることが報告された。

第33回 問題67

介護福祉職がAさんについて、主観的に記録したものを1つ選びなさい。

- 1 パーキンソン病（Parkinson disease）と診断されている。
- 2 帰宅願望から、レクリエーションの参加を拒否した。
- 3 「家族に迷惑をかけたくない」と話し、
できることは自分で行っていた。
- 4 週3回、通所介護（デイサービス）を利用している。
- 5 昼食時にむせることが多く、
食事を残していることを娘に報告した。

Answer